



2020年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2020年1月30日

上場会社名 株式会社木曽路

上場取引所 東名

コード番号 8160 URL <http://www.kisoji.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 吉江 源之

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 戸谷 明宏

TEL 052-872-1811

四半期報告書提出予定日 2020年2月6日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	32,925	1.0	869	25.5	910	20.5	471	37.4
2019年3月期第3四半期	32,603	0.8	1,167	19.1	1,145	11.4	752	24.5

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	18.45	
2019年3月期第3四半期	29.46	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	39,588	29,391	74.2
2019年3月期	39,444	29,803	75.6

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 29,391百万円 2019年3月期 29,803百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		11.00		19.00	30.00
2020年3月期		15.00			
2020年3月期(予想)				15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	46,000	2.0	2,330	9.5	2,370	7.6	1,270	23.5	49.73

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期3Q	25,913,889 株	2019年3月期	25,913,889 株
期末自己株式数	2020年3月期3Q	380,816 株	2019年3月期	380,261 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期3Q	25,533,470 株	2019年3月期3Q	25,534,261 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、〔添付資料〕4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(第3四半期累計期間)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
2020年3月期	32,925	869	910	471	18.45
2019年3月期	32,603	1,167	1,145	752	29.46
増減率(%)	1.0	△25.5	△20.5	△37.4	-

当第3四半期累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善から景気は緩やかな回復基調が続いているものの、米中貿易摩擦や英国のEU離脱問題など海外経済の不確実性の高まりから先行きの不透明感が一層強まっている状況にあります。

外食業界におきましては、人件費や原材料費、物流費の高騰が続く中、多様化する消費者ニーズや根強い節約志向、そして、消費増税により税率10%の外食と軽減税率8%の中食などの業種、業態の垣根を越えた競争が激化しており依然、厳しい状況が続いております。

このような経営環境の中で当社は、定期的なTVCMにより季節毎のフェアを告知するとともに、コア商品のブラッシュアップを行いました。

費用面においては、ワークスケジュールの管理と機械化により更なる生産性の向上と、経費管理の徹底に努めました。

店舗展開、改築・改装につきましては、6店舗の新規出店、1店舗の業態転換、4店舗の改装、2店舗の退店を実施し、その結果、当第3四半期会計期間末の店舗数は174店舗(前年同期比6店舗増加)となりました。当事業年度は既存業態と新業態の積極的な新規出店を行い、収益拡大を図ってまいります。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は329億25百万円(前年同期比1.0%増加)、営業利益は8億69百万円(同25.5%減少)、経常利益は9億10百万円(同20.5%減少)、四半期純利益は4億71百万円(同37.4%減少)を計上しました。

なお、台風19号の影響により、お客様と従業員の安全を確保するため10月12日(土)に関東全店舗の休業と中部地区においても営業時間の短縮を行いました。今後も安全、安心を最優先にした企業作りにも努めてまいります。

(部門別の概況)

部門別売上高

	前第3四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	前年同期比 増減率
	百万円	百万円	%
木曽路	27,354	27,697	1.3
居酒屋	2,713	2,529	△6.8
じゃんじゃん亭	1,673	1,617	△3.3
鈴のれん	679	726	7.0
その他	183	355	93.5
計	32,603	32,925	1.0

木曽路部門

しゃぶしゃぶ・日本料理の「木曽路」部門は、3店舗の新規出店により、当第3四半期会計期間末店舗数は122店舗(前年同期末比4店舗増加)となりました。

営業面では新規顧客の獲得、来店動機づくりにTVCMを引き続き実施するとともに、ご来店のお客様へ新元号に因んだクーポンの配布など、再来店を促すことで客数増に努めました。そして、木曽路の強みであるハレの日需要へのアプローチを引き続き実施し、最適なおもてなしの提供に注力してまいりました。その結果、売上高は276億97百万円(前年同期比1.3%増加)となりました。

居酒屋部門

9月1日付で営業力強化、業務効率化、及び人員の最適配置等のため、「素材屋」「とりかく」「ウノ」「このの」を「居酒屋」部門に統合しました。「居酒屋」部門は1店舗の業態転換(「素材屋」から新業態酒場「大穴(ダイアナ)」への転換)を実施し、当第3四半期会計期間末店舗数は25店舗となりました。

営業面において、「素材屋」では味噌串かつ・手羽先の唐揚げなどの名古屋めしやこだわりの串焼き、また自家製の惣菜料理や旬の食材を活かした季節メニューの販売、焼酎一升瓶のお値打ち販売を実施するとともに、少人数から大人数まで様々な宴会でご利用いただける店舗として営業活動を行いました。「とりかく」では引き続き「手作り」、「鶏」にこだわった料理と旬の逸品料理の販売を行うとともに、ハイボールフェアなどを定期的に開催しました。その他、ワイン食堂の「ウノ」、九州味巡りの「このの」についても宴会需要を中心に販売促進活動を行いました。しかし、前年同期と比べ、2店舗を出店した一方で、2店舗の退店、1店舗の改装休業及び客単価の低下により、売上高は25億29百万円(同6.8%減少)となりました。

じゃんじゃん亭部門

焼肉の「じゃんじゃん亭」部門は、1店舗の改装と1店舗の新規出店により、当第3四半期会計期間末店舗数は15店舗(前年同期末比1店舗増加)となりました。

営業面では、サラダバーやデザートバーを設置するなど新たなコンセプトでファミリー層を中心とした顧客獲得を目指し1店舗の改装と12月に「じゃん亭岐阜六条店」をオープンしました。既存店舗においては、食べ放題メニューの拡販とスピード提供、先手のサービスに取り組み、インスタグラムのハッシュタグキャンペーンや学生応援企画の実施などの販促により予約獲得に努めました。しかし、1店舗の改装休業及び既存店の客数の減少などにより、売上高は16億17百万円(同3.3%減少)となりました。

鈴のれん部門

和食レストランの「鈴のれん」部門は、店舗の異動はなく、当第3四半期会計期間末店舗数は7店舗であります。

営業面では、「しゃぶしゃぶ祭り」や生ビール・ハイボールの平日半額販売を実施しました。御膳料理を充実させるとともに慶弔などのお集まりに対応したメニューと個室、送迎バスをアピールし、来店客数の増加に努めました。その結果、売上高は7億26百万円(同7.0%増加)となりました。

その他部門

その他部門は、からあげ専門店の「からしげ」、天井の「てんや」、外販(しぐれ煮、胡麻だれ類)、不動産賃貸等であります。

前年度の「からしげ」、「てんや」の新規出店により、売上高は3億55百万円(同93.5%増加)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

	前事業年度末 (2019年3月31日現在)	当第3四半期 (2019年12月31日現在)	増減
総資産(百万円)	39,444	39,588	143
純資産(百万円)	29,803	29,391	△412
自己資本比率(%)	75.6	74.2	-
1株当たり純資産(円)	1,167.24	1,151.11	△16.13

当第3四半期会計期間末の総資産は395億88百万円で前事業年度末比1億43百万円の増加となりました。主な要因は、設備投資、賞与、配当金、法人税等の支払による預金の減少の一方で固定資産の増加、季節的要因で売掛金と棚卸資産が増加したことによるものであります。一方、負債は、101億96百万円で前事業年度末比5億55百万円の増加となりました。これは主に季節的要因で買掛金が増加した一方で未払法人税等が減少したことによるものであります。また、当第3四半期会計期間末の純資産は293億91百万円で前事業年度末比4億12百万円の減少となりました。主な要因は、四半期純利益4億71百万円の計上と剰余金の配当8億68百万円及びその他有価証券評価差額金の減少13百万円によるものであります。

以上の結果、当第3四半期会計期間末の自己資本比率は74.2%(前事業年度末は75.6%)、1株当たり純資産は1,151.11円(同1,167.24円)となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は2019年10月31日の「2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)」にて発表いたしました2020年3月期の業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)を以下の理由により修正しました。

売上高につきましては、相次ぐ台風上陸や消費増税などに起因する消費マインドの悪化から客数が減少し客単価も低下したこと、及び新規出店を順延したこと等により業績予想を下回る見込みとなりました。

営業利益、経常利益及び当期純利益につきましては、生産性向上に努めましたが、賃率の上昇による人件費の増加等により業績予想を下回る見込みとなりました。

(通期の業績予想数値の修正)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益(円)
前回発表予想(A)	47,000	2,650	2,700	1,680	65.80
今回修正予想(B)	46,000	2,330	2,370	1,270	49.73
増減額(B-A)	△1,000	△320	△330	△410	-
増減率(%)	△2.1	△12.1	△12.2	△24.4	-
(ご参考)前年実績 (2019年3月期)	45,086	2,573	2,564	1,659	64.98

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位:百万円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,435	13,377
売掛金	1,331	1,846
商品及び製品	36	59
原材料及び貯蔵品	688	976
その他	476	714
貸倒引当金	△0	△1
流動資産合計	17,969	16,973
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	5,541	5,850
土地	5,723	5,723
その他(純額)	1,928	2,161
有形固定資産合計	13,193	13,735
無形固定資産	215	356
投資その他の資産		
差入保証金	4,419	4,585
その他	3,677	3,966
貸倒引当金	△29	△29
投資その他の資産合計	8,067	8,522
固定資産合計	21,475	22,614
資産合計	39,444	39,588
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,253	2,042
短期借入金	920	920
未払法人税等	641	22
賞与引当金	596	240
その他の引当金	356	373
その他	2,629	3,215
流動負債合計	6,398	6,814
固定負債		
退職給付引当金	975	968
資産除去債務	1,343	1,365
その他	923	1,047
固定負債合計	3,242	3,382
負債合計	9,640	10,196
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,056	10,056
資本剰余金	9,875	9,875
利益剰余金	10,713	10,316
自己株式	△927	△929
株主資本合計	29,718	29,320
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	85	71
評価・換算差額等合計	85	71
純資産合計	29,803	29,391
負債純資産合計	39,444	39,588

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	32,603	32,925
売上原価	10,330	10,307
売上総利益	22,273	22,618
販売費及び一般管理費	21,105	21,748
営業利益	1,167	869
営業外収益		
受取利息	15	16
受取配当金	19	20
協賛金収入	5	7
その他	8	7
営業外収益合計	49	51
営業外費用		
支払利息	5	5
和解金	1	3
その他	65	2
営業外費用合計	72	11
経常利益	1,145	910
特別利益		
固定資産売却益	2	-
投資有価証券売却益	63	20
特別利益合計	65	20
特別損失		
固定資産除却損	2	93
減損損失	30	-
特別損失合計	32	93
税引前四半期純利益	1,178	837
法人税、住民税及び事業税	251	190
法人税等調整額	174	175
法人税等合計	426	365
四半期純利益	752	471

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。